

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①小学生植樹体験／厚真高校陸上部全国大会出場
- ②ディスカバリーカルチャー／戦争遺跡見学会
- ③土器づくり／厚真ダム・厚幌ダム周辺散策ツアー／ガラス玉づくり
- ④二十歳のつどい／5月定例教育委員会／学校プール利用のお知らせ
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動紹介

自然に触れて、
厚真を学ぶ

小学生植樹体験開催

町内の小学校では、ふるさと教育の一環として「厚真の自然（林業）」をテーマに植樹体験を行い、環境保護の重要性や林業に関わる仕事のことについて学びを深めました。

上厚真小学校6年生は、5月10日（金）に Atusumanoki96（代表 中川 貴之）が協力団体となり、三菱マテリアル（株）・丹羽林業（有）の職員の指導を受け植樹体験を実施。厚真中央小学校4年生は、6月13日（木）に胆振総合振興局が主催する「道民ひとり一本植樹・育樹運動推進事業」に協同し、植樹体験をしました。

植樹体験では、五感をとおして自然に触れることで厚真の魅力に気づき、森林と人との関りを主体的に考えることを目的に実施。初めてカラマツやグイマツの苗を植樹した子どもたちは、30cmほどの穴を掘ることに悪戦苦闘しつつも、丈夫に育つことを願い1本1本ていねいに植えていました。

活動を終えた子どもたちからは「植えた木が伐採されるまで80年近くかかることを知りおどろいた」、「森林は多様な生物の生息地でもあり、植樹によって生態系のバランスが保たれていることを知れた」などの声が聞かれました。

中央小学校の植樹に携わった、厚真町林業・森林再生推進グループの宮 久史氏は「50年後に自分が植えた木がどのくらい成長したか見に来てほしい。そして、子どもたちが、さまざまな気づきや発見の中で、自然とのかかわりを学んでほしい」と話していました。



↑スコップで穴を掘る厚真中央小学校の児童



←マツの幼木を植樹する上厚真小学校の児童

祝 厚真高校陸上部 全国大会出場！

高体連全道陸上競技大会が6月11日～14日に旭川市で行われ、厚真高校陸上部（部員8人）の全選手が出場しました。学校対抗戦では男子フィールドで2位、個人種目では、兼本洸埜さん（3年／砲丸投・円盤投）、中島愛梨さん（3年／円盤投）、大垣尊良さん（1年／砲丸投・円盤投）の3人が7月28日から福岡県で開催される全国大会（北部北九州インターハイ）への切符を手に入れました。

○成績（敬称略）

- 兼本洸埜（3年）砲丸投2位、円盤投3位、ハンマー投予選敗退
- 中島愛梨（3年）円盤投3位、ハンマー投6位、砲丸投予選敗退
- 大垣尊良（1年）砲丸投優勝、円盤投優勝、ハンマー投予選敗退
- 伊藤柊優（2年）砲丸投11位、円盤投9位
- 小宅和哉（1年）やり投予選敗退
- 蛭名さくら（3年）砲丸投・円盤投・ハンマー投予選敗退
- 中島花奏（1年）砲丸投7位、円盤投7位、やり投10位
- 長尾結愛（1年）走幅跳予選敗退



厚真高校陸上部の皆さん
全国大会での活躍も期待しています！

多世代×多種多様な学び ディスカバリーカルチャー始まりました！



教育委員会では、令和4年度からプラネタリウムの定期投影と合わせて、多種多様な学びの機会を提供することを目的とした「ディスカバリーカルチャー」を開催しています。今年度最初の取組として、5月19日（日）、青少年センターを会場に「だれでも一緒に遊べるボードゲームの世界」と題して、子どもから大人まで14人が参加しました。

参加者全員でプラネタリウムを見た後、ボードゲームの歴史や魅力についての説明を受け、ウノやトランプなどの有名なものや、「ナンジャモンジャ」「音速飯店」など、普段はなかなか目にしないゲームに触れ、笑い声が絶えない時間となりました。次の開催は7月を予定していますので、ぜひご参加ください。



参加者全員でボードゲームを楽しんでいる様子

【問合せ】

教育委員会 社会教育グループ
☎27-2495

今もなお残る 戦争の痕跡

戦争遺跡見学会を開催

教育委員会では、5月26日（日）に約79年前の太平洋戦争中につくられた厚真町と苫小牧市域のトーチカ（コンクリート製の防御用陣地）や対戦車ごう（戦車などの進入を防ぐ堀）、兵舎跡など4カ所と戦争資料を展示している軽舞遺跡調査整理事務所の見学会を実施しました。平成25年から行っているこの見学会は、北海道胆振東部地震や新型コロナウイルスの影響で一時中断しましたが、町内外から15人が参加しました。

今回は好天に恵まれ、戦争遺跡見学会で初めての見学地となる厚和トーチカを見学することができました。その他、共和地区の塹ごう地点も見学し、町内の参加者も普段自動車を通る身近な場所に戦争遺跡が隠れていたことに大変驚いた様子でした。



共和地区の残ごうを見学する参加者



厚和トーチカは、半分埋まっている状態で今も残っています



軽舞では38式歩兵銃、軍服など様々な展示品を手にすることができます

地域の戦争についての体験や当時の話を聞いたことはありませんか？

厚真町内に数多く残る戦争遺跡のみならず、当時や戦後の大変だった生活や出征の様子、戦争の記憶や家族から聞いた体験談などを次世代に語り継ぐために、体験談などをぜひお聞かせください。

【連絡先】軽舞遺跡調査整理事務所 ☎28-2733

**みんな一生懸命
作りました！**

「土器づくり」を開催



6月9日（日）に軽舞遺跡調査整理事務所で土器づくり体験を行いました。今回は、定員より少し多い町内14人、町外11人の計25人の参加となりました。

参加者は、土器づくりをする前に、過去の作品や展示している本物の縄文土器を見て・触ってイメージをふくらませてから制作にとりかかりました。大人も子どもも一生懸命頑張って、約2時間で縄目文様までつけて完成させ、出来映えに皆さん大変満足された様子でした。

土器焼きは9月8日（日）に行う予定で、参加者は焼き上がりをととても楽しみにしていました。



↑土器づくりの様子

←自分の作品によるこぶ小学生

厚真ダム・厚幌ダム周辺散策ツアーのお知らせ

幌内地区の厚真ダム、厚幌ダム周辺は皆さんが知っているようで知らない場所がいくつかあります。今回は、むかわ町穂別地区に抜ける「北進平取線」も開通予定となっているため、意外と近い隣町まで足を運びながら、厚真町北部の散策を行います。

◆日時 7月21日（日）9時～15時ごろ

◆集合場所 厚南会館 9時
青少年センター 9時20分

◆見学場所 厚真町幌内地区周辺

◆定員 先着20名程度（小学生以上）
※小学生は保護者同伴

◆参加費 無料

◆申込・問合せ 7月16日（火）17時まで
軽舞遺跡調査整理事務所 ☎28-2733（平日のみ）
メール：shakai@town.atsuma.lg.jp



見学予定

- 1.昔の田舎まつり会場
- 2.上幌内小中学校跡地
- 3.厚真ダム
- 4.穂別地区市街地
- 5.厚幌ダム
- 6.厚幌ダム右岸小公園
- 7.厚幌ダム遺跡群見学
- 8.幌内神社 など

←右岸小公園に建設されたチセ風あずまや
※チセ=アイヌ語で「家」

「ガラス玉づくり」のお知らせ

アイヌ出土文化財も

見学できます！

全国から注目されている厚真町のアイヌ民族出土文化財。九州福岡県や中国産のガラス玉が出土しており、文化庁主催の全国巡回展にも出品されています。

アイヌ文化を学びながら、模様入りのガラス玉（トンボ玉）を作ってみませんか。

◆日時 令和6年8月4日（日）※下記のいずれか
午前の部 10時～／午後の部 13時～

◆場所 軽舞遺跡調査整理事務所

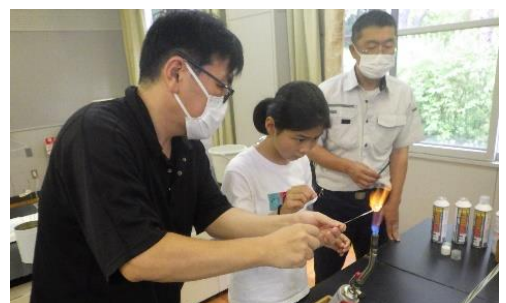
◆定員 先着各10名程度（小学校3年生以上）
※小学生は保護者同伴

◆参加費 無料

◆申込・問合せ 7月31日（水）17時まで
軽舞遺跡調査整理事務所 ☎28-2733（平日のみ）
メール：shakai@town.atsuma.lg.jp



模様入りの「トンボ玉」



昨年度のガラス玉づくりの様子

令和6年度第3回厚真町二十歳のつどいを開催します！

今年度も下記のとおり、20歳になる方を対象とした「令和6年度厚真町第3回二十歳のつどい」を開催します。開催に向けて、当日の運営の企画立案等に携わる実行委員もあわせて募集しますので、ご協力をお願いします。

【令和6年度二十歳のつどい】

日時 令和7年1月12日（日）午前中を予定
 場所 厚真町総合福祉センター
 対象 平成16年4月2日～平成17年4月1日までに生まれ、本人または両親が町内に在住している方（町外へ転出した方も参加可能）

※案内については、10月頃、対象者へ送付する予定です。

実行委員募集しています！

令和3年度から、対象者自らが運営に携わり、一生に一度の節目をより充実したものにするため、実行委員会を立ち上げています。上記対象者で、実行委員会の活動に興味がある方は、右記まで申し込み、お問い合わせをお願いします。



詳しくはホームページをチェック！

一生に一度の節目を大切に

二十歳のつどい 実行委員募集しています

令和6年度第3回二十歳のつどい開催日時
令和7年1月12日（日）午前中を予定

一緒に 0から考えませんか？

募集対象 平成16年4月2日～平成17年4月1日までに生まれ、本人または両親が町内に在住している方（町外へ転出している方も参加可能）

内容 ・自ら当事者として企画・立案していきます
・二十歳のつどい実施までに年間3～4回程度実施予定です。
※オンラインでの参加も可能です

こんなこと話します → どんな記念品だといいかな？ 思い出に残る1日を作るためのアイデアを

申込方法 *厚真町教育委員会社会教育グループ(0145-27-2495)へ電話申し込み
※7月15日（金）締切
※もしくは右記QRコードからも申し込み可能です。

申し込みフォーム

【申込み・問合せ】

教育委員会 社会教育グループ
 ☎27-2495

5月定例教育委員会

5月30日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆報告事項

総務文教常任委員会について／5月校長・教頭会議について／厚真町教育研究所第1回全体研修会・部会研究について／第1回厚南地区学校運営協議会について／第1回教育支援委員会について／その他9件

◆議案

厚真町地域おこし協力隊教育魅力化支援員設置要綱の一部改正について／厚真町地域おこし協力隊教育魅力化支援員活動費助成要領の一部改正について／教令和6年度厚真町育英資金の貸付けについて

◆その他

第59回北海道市町村職員教育委員研修会について

★問合せ

教育委員会 学校教育グループ
 ☎27-2494

学校プール利用のお知らせ

次のとおり、一般の方に厚真中央小学校と上厚真小学校のプールを開放します。お気軽にご利用ください

◆期間 7月16日（火）～9月5日（木）
 ※8月13日（火）～8月16日（金）は学校閉庁日のため利用できません。

◆時間 ○平日 14時00分～17時00分
 ○土日・祝日・夏休み期間 10時00分～17時00分
 ※昼休みのため、12時00分から13時00分の間は利用できません。

★問合せ 教育委員会 学校教育グループ
 ☎27-2494

皆様のご利用を
 お待ちしています！



青少年センター図書室

☎27-2495（平日）

☎27-2321（土日）

図書室だより

王道スポーツ少年マンガ 「大相撲のひみつ」

出版社学研が発行している本に、職業や製品についてマンガ形式で紹介する「ひみつシリーズ」というものがあります。この本は学校や図書館に寄贈されますが書店では販売していないので、ご覧になったことがない方も多いかもかもしれません。新刊のテーマの大相撲が久しぶりに面白かったので、ぜひ読んでほしいと思いましたので、図書室だよりで紹介します。

小学生の頃に自分が住んでいる市出身の関取が優勝したことがきっかけで、相撲に興味をもったレン君。巡業に来た関取に会えたことや、友達のお兄さんハルト君が通っている相撲クラブに体験入門したことから、本格的に相撲に取り組み、横綱を目指すことになったというのがあらすじです。大相撲の世界を紹介するマンガですので、相撲部屋に入門する方法や大相撲に関する

豆知識がふんだんに盛り込まれており、将来角界を目指す人にとっても良い入門書にもなります。

何が面白かったのかというと、レン君は特に体格が良いというわけでもないのに、横綱になるまで相撲をあきらめなかったところ。持ち前の明るさ、負けてしまった取組を反省して練習に活かすところ、先に相撲部屋に入り大関になったハルト君に会いに行って自分も頑張るぞ！と思う強い心が、ひと昔前の少年マンガのようで良かったです。

今回紹介した本は、図書室の児童書コーナーで所蔵しています。

また、学研の「まんがでよくわかるシリーズ」は、ウェブ上で「まんがひみつ文庫」として無料で公開されています。

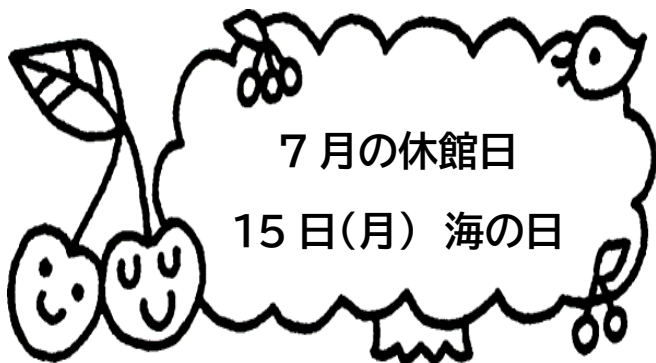
興味を持たれた方は読んでみてください。



本の寄贈について

厚真町公民館図書室では、「北海道」「厚真町」に関する本の寄贈を受付しています。

図書室に寄せたい本がある時は、まずは平日（月～金）の9時～17時に、青少年センター図書室（☎27-2495 教育委員会にかかります）までご相談ください。



■青少年センター図書室開館時間

9時00分～17時00分（月・水・金・土・日）

9時00分～19時00分（火・木）

※祝日、年末年始は休館となります。

■厚南会館図書室

9時00分～17時00分（月～日）

※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は休館となります。

あそびにきてね！

7月の「おはなしのびっ子」による絵本の読み聞かせは
25日(木) 10時00分から10時30分まで
場所：厚真子育て支援センターです。



☆ 放課後子ども教室活動報告 ☆

「ただいまー！」と帰ってくる子どもたちの声に、少しばかり疲れの色が見えるのは、運動会に向けて、一生懸命、練習を頑張ってきた証拠。毎年、運動会前の子ども教室では、疲れた体を休めながら、気持ちのリフレッシュができるよう『ラクガキ大会』というプログラムを実施しています。大きな模造紙に、好きな絵を好きなように描きこんでいく子どもたち。色鉛筆や水性ペンなどを使い分けて、発想力豊かにラクガキを楽しんでいました。運動会当日、子どもたちの応援をしに各小学校へお邪魔してきましたが、練習の成果を発揮して、競技や係の仕事に取り組む姿に感動しました。勝負には、勝って嬉しい・負けて悔しいだけではなく、個人として、またはチームとして作戦を考えたり、実践して改善したり、子どもたちのチャレンジと成長の様子も見るすることができます。子どもたちのイキイキとした表情が、まぶしく光る瞬間は何度見ても嬉しいものですね。これからも折に触れて、学校行事へも足を運んでみたいと思いました。

木々の緑も濃くなり、虫や生き物たちも活発に動き始め、季節が夏に向かっていくことを感じる今日この頃。5月後半の子ども教室では、身近な自然を味覚で感じるプログラムを実施しました。草餅に使用されるヨモギは、子どもたちの生活圏にあり、よく目にする山菜のひとつです。このヨモギと白玉でヨモギ団子を作ったり、天ぷらにしたり、子どもたちと美味しくいただきました。ヨモギの他、この時期の厚真ならではの食材として、氷室メークインや春イチゴも少しばかりではありますが用意をし、地元の食に触れられる機会も提供しています。美味しいものは、みんなで食べるとより楽しい思い出として残るものです。子ども時代の美味しい記憶が、やがて大人になる子どもたちにとって、故郷の記憶として深くつながってくれることを願います。

運動会が終わってほっとひと息ついた頃、子どもたちからも人気の高いプログラムのひとつである『大きなシャボン玉づくり』のミニ実験を行いました。水と食器用洗剤に加えて、洗濯のり（PVA）とグリセリンをよく混ぜてシャボン液を作ると、割れにくい丈夫なシャボン玉ができます。今年も子どもたちの顔の2倍以上はあるであろう大きなシャボン玉が、いくつも空に舞い上がっていました。「家でもやってみたい！」と、各材料の分量を聞きに来て、メモを取って帰る子の姿も。材料は100円ショップや薬局で手に入るものばかりです。ぜひ、おうちの人ともこの面白さを共有してほしいと思いました。

